明治三十八年二月七日　朝鮮日報　（日刊）　（火曜日）　第十六號　（一）

明治卅八年一月十四日　第三種郵便物認可

朝鮮日報

紀元二千五百六十五年
韓曆光武九年
陰曆甲辰十二月二十四日

日報論壇

韓國に於ける我警察權（續前）

黒潮生

惟ふ、我帝國領有の當時一個師團の兵と幾多の憲兵と巡査とを有しながら尚我行旅の客匪賊の害に遇ふもの頗る多かりき而して我領土にもあらぬ韓の内地に於て其安寧を求めんは假令兵力と警察權の普及とを以てしても亦頗る難しとなす、況んや無政府無警察の情態は亞非利加土蕃の巣窟に等しき韓民の村落に於て、多くを求むるは過ての甚しきものならむ、見よ韓人の頑愚なるや、以為らく日本の朝鮮を攻めざるは我國兵尤も强きが為なり、而して日清の戰役は日本が勝利を得たるが如く吹聴せるもそは實に嚥言也壬辰の役豊太閤の大軍にして亦破れて歸りしに非ずや云々。

昔し對州藩が幕府の命を使として對韓の衝に當り釜山に館を構へて國際間の事を處置するや彼等は實に善く韓人を解釋して恩を施すべからず威に服すべしと為したり而して今や我邦は韓の獨立を扶け其開發に任せんとして清を征し露を打つて其國家を保護し民を誘導するに當り我邦民の内地に來るものの益多きに及んでは此患に對しても徒らに寛大なる遊民に律す可き將は一大威力を以てせざる可からざるに非ざる乎

或人は韓人を威服せしめんには洽く我憲兵を配置せよと說けり、之は我憲兵の京釜鐵道線路に駐在せしものの好結果を示し秩父嶺の頭領の韓人の立てたる所の憲兵軍曹某乃ち頌德碑の事へあり、と云ふに於て其論據とする所を一に知るを可し、而して韓國に於ける我軍の政を布くは、事態甚だ容易にして非ずして亦併行するの可らず、現下我警察制度が韓政府の機關に依る處なしとせず、前に述べたる所なるが如く大小の顧問を招聘せるを見るべし更に我警察制度を進めて我警察制度に依て其地方を治め、都市内地に雇用せしめて其治安の途を謀らせしむ可き也、斯くせば一は韓政府が所期する韓政改革の實行を促進せしむると同時に頑愚惡徊たる我に對して其旅客及内地起業の徒をして其生命と財産を保全するを得せしむるを得ん也。

終に臨んで一言せんと欲するは我居留地各處の警官に對する吾徒の希望なり、由來吾人の[illegible]公等果して我日本警察權度の美を韓の我居留地に傳へたるか、公等は徒らに尊大にして彼韓國官吏の風有るに非るか、公等職務に熱する事薄くして私利權れ計るに非るか、公等の職務の餘暇は一種の商業に從事せられつゝあるものあるに非るか、若し其の如くして之を深く内地に移すも世間が望む如きの美果を收め得可きやを疑はしむるものあるに非るか、此は實に緊要の問題也、我警察權を普及せしむるの必要と共に最も緊要なる問題也。（了）

公開狀

黒潮浪客に與ふ

南部露庵

朝鮮日報毎號拜讀、快讀一過其是朝鮮第一の新聞なりと絕叫するを禁じ得ず、殊に君が逸早くも佐世保軍港新聞の創刊者たる地位を捨て、韓山の客となり、神出鬼沒に與論致候、萬生若は其經濟に於て其議論に於て當代第一流の朝鮮通に御座候間其筆鋒の鋭利は此際必ず書冊として現はるゝ事ならんと窃かに期待致し居候之が雜誌にもあらで日刊新聞として見らるゝと云ふは御同人方御苦心の程も察せられて御健鬪御運動に感服致候新聞で素作つて見やうと企て新聞を出でもなつて見やうと云ふ記者が始めてヂウか讀んで貰ひたいと書く新聞とは異なりて揭救山が所謂、忠義之心於中而不能止と云へる心地より出來たる此新聞他日は必ず大成功を見るに相違無く候得共一國神經系統の敏活を缺ぎたる韓國の一隅に據りて之を其國に普及せしめんとせるの頗る困難なると同時に朝鮮と云へば豊公の征伐せし處を心得たる其感想の未だ全く醒めざる内地人ぬは玉石を類別せしむるも又大骨折りなる可く去りとて又大抱負を暢べんには之を雜誌にするに若かずてふ理論も今日の時勢に於ては咄理論に止まりて審議するもの無く候は盛悔の妙も知らせられず、何れ取り捨てつの上の御決行なる可く唯今其實價の證明を求めらるゝ迄はヌタッセル以上の堅忍持守に愛ねるに我包圍軍の勇猛進擊を以てせらるゝこそ肝要なる可く小生は社員諸君が此決心を以て此第一號を擧げられたる可きを信じ申候

小生も實業中の事とて[illegible]

東亞西漸[illegible]朝鮮と云ふ問題はたしかに小生が半生を費勞せしめたるものにて今後も又[illegible]と苦心罷在候事に付貴新聞の發達と此地方にて奔走す可き積りに候[illegible]（或は[illegible]）必ず御盡力可致候而して小生も女今熱心なる愛讀者の一人として貴紙の御發展を[illegible]別に注文あり紙上に朝鮮に關する問答欄を設け（是は讀者と記者との關係）時局の井下雅二位川に新聞を出させなども如何朝鮮通はそんなものと見るも[illegible]り（了）

慶尚道事情に關する釜山領事館の調査（續）

第九　工業

本道に於ては工業として見るべきもの殆んど無く、慶州の紙等は韓人間には甚だ好評なれども[illegible]製鹽業のみは比較的盛にして其方法幼稚なるは[illegible]全道の製鹽地に就き其概況を記述せん左に

蔚山灣の奥北面に位し蔚山川の左岸にある始島は製鹽釜數十三個を有し右岸にあるを三島鹽田と稱す故に總稱して三島鹽田と云ふ製鹽釜數二十三七町余の鹽田を有し三十三町鹽田六十丸町余にして毎年陰曆十二月より翌年十二月迄六ヶ月間を盛期とし四月より九月迄は農業多忙なるが故に休業の事なり一座の製鹽度數は一ヶ月晴天の際は十四回を最上とし以下天候により多少增減ありとす

鹽田の構造は形ち方形にして廣さ二反歩乃至一町に田面の廣狹により沼井五ヶ所乃至十ヶ所を設く沼井は四邊の溝側又は小溝を通じて海水を導き田面平坦にして砥の如くなし[illegible]

[illegible]

さ廿二尺幅二尺五寸燃料の投入に自由ならしめ別に煙突の設なし燃料は松葉にして製鹽法は毎日早朝より作業に着手す其順序は鹽田を鋤きて四邊の小溝より海水を撒布し其乾燥するを待て鹽土を採集し沼井の鹹水を汲採して製鹽場溜池に移し鹹水の供給充分となれば煮釜に汲み込み點火の準備をなす大概一座に村人員六人を要し三人は鹽田に作業し三人製鹽場にありて火を焚き鹹水汲を交替に務む點火は早き時は午前十一時頃より遅きも午後三時頃迄に開始し燃料を絶へず竈内に投入しつゝ全部に火力の平均を保ち釜中の鹹水を煮沸す而して一人は圓形の瓢製長柄の汲杓子を以て溜池の鹹水を時々釜上の木林より灌注しつゝ蒸發減退の量を補ふ煮沸時間は約二十四時間にして爽火夜を徹し同時刻に至り水分を悉皆蒸發して了したるを度として燃料の投入を止め之を放置する事四五時間火氣衰へ釜中漸く冷却するに及びて木製の篇に依て結晶鹽を採集し興盛通過器に移す一座の製鹽高は一晝夜の製出高七十斗乃至八十斗に及ぶ事あり一斗は我一升五合位に當る經業組織は其規模小なるものは一座を所有し一家族にて製鹽に從事するもあり大なるものは數箇屋と稱し一人にて五六座を所有し傭に雇人を使役す一ヶ月の給料四貫文乃至五貫文「十五割」自辨とす一家族組織に於ては年中作業する牛を得れども雇人使役者は夏秋農業に多忙の際は雇人等の多くは家に歸るを以て半ば休業の姿なりとす

以上三島鹽田に於ける概況にして其產出額は韓國乃ち統計の據るへきものなければ漸く貫量と推測とにより調査せしものを掲ぐれば左の如し

僕の近頃

忠清道某所に於て　きすらひ人

僕は昨冬來此地にあり、近來漸く日報紙上に[illegible]行の事を聞き、万生兒の經驗漸めてなれるを脫するの情に堪へず、僕の痛覗に至れば感慨自ら禁ずる能はず、僕も亦兄等と共に日夕紙面を以て病愁を忘れむとするに切なりと雖も只如何せん俗事の羈束は僕の自由を任せしめざるを、即ち閑に乘じて近狀を敍し、胸中萬斛の愁を遣らんと欲す時に夜深うして六花窓を撲つの靜けさ、端を持して瞑坐すれば思は遠く兄等の身邊に飛ぶ。

人の不愉快は自分の心に染まぬ事を强ゐられ、自ら此不得意な事に從ふより苦しいものはあるまい、鈍刀竹を切り、破帆風を受くるが如く事毎に障滯も物々に沮害を免れぬものだが僕の今の境遇は實に此であるる。昨年の初は僕も東京に在て希望に輝く新年を迎へたのであるが其正月の屠蘇の香も失せやらぬ裡に僕は生れて初めての大打擊を受けた、それは不治の大患に罹つた事である、從來健康を恃み、快活に誇つて居た僕は殆んど心ならぬ苦痛と憂悶とに陷るを免れなかつた、思へば我は噴火山上の跳舞者に異ならなかつた、舊の如く變轉せる浮世の境目に在て毫も斷ながめのであつた、數年の苦戰を苦の締括りを藤ち得るに至らひどく脆くも遂に運命の悪戯の前に

り隙を突いた、世に若し殘念なるものがあるとすれば、それは兩軍對峙の時の勝負を試みんとした戰士が流れ矢にても中つたのか、直前勇往の氣に富める青年が志業漸く成る、悲むべき病と云ふ魔物に行手を遮られた事であろ

が併し運命の前には泣言は許さぬ、其運命の善惡に係らず運命は一大事として騎乎として作用するのである、運命の判廷に於ては被告は其正邪曲直を爭ふ事は出來ぬ、一度冷酷な判決が下されたならば、我々は何處迄も之に服從するより外に方法がない、僕は泣々も之に服從し、從來の希望も目的も擲けて奴隸の如くでなければならぬ、僕は屍の如く打捨てた代り病氣と云ふ重荷を背負ふて心細くも新曆を立つたのは三月の初めつかたであつた。

一月以來韓國の下にある人でさへ和戰何れとも知らなかつた政府の態度漸く判明し此數日來市中漸く活氣に滿ち今六時の急行に投せんとして新橋ステーションに死斯麼の光の下に立つた僕の周圍は戰に關係ある地方々に向ふ政治家、新聞記者、商人、山師ぶ（の人に滿ちて居る、中にも黒の外套に身を裏み、腰間に鳴る錚々の劔、脚底に響く堅々の靴、輝かしシヅハイ儀き坊內を俳徊する幾多の武人は召集に應じて任に赴くものではないか、此間に悲然とし泣車の輪輪にあるより送め入れ如く、人の流に打混つて改札口よりヅラットホームに進み漸く客車の席上に身を置いた僕は窓より面を出して一層長蛇の如き列車を眺むれば游戯せる幾千の人々は車外の見送人に對し盛に談笑して居るのである、頓て列車の進行を勸むるや萬歲の喚聲は車傍に起つて耳を聾する許り、僕を見送つて呉れられた學友や知己の人々も亦更に角僕が戰ある地方に向ふを祝ふので萬歲を唱へて呉れた、あゝ僕が若し平時の僕であつたならば少しも二三旬以前の僕であつたならば此千載の壯事に會し血湧き肉動くの感を禁め得なかつたであろう、殊に車中に在る青年士官の人々が頻りに既往の戰役を語り遠回の壯舉を話するを聞き、沿道のステーションに至る毎に一二必ず召集に應ずる人あり、召集に應ずる人ある毎に萬歲の聲舉手を勸するを親て益々豪快の念を呼起されたであろう、然れども之を親之を聞きて人並に心を勵すには僕の心は余りに沈鬱であつた、今之ぞ多少天命に安むずる心も出で病氣に克つ意氣も生じたけれども其當時の僕は殆んど死灰に等しく火あるも之を發すに足らず、山間の深淵の如く風あるも之を蕩すに足らなかつたのである、如此にして爽快壯なる長途の旅行も沈鬱の中に經過して京都に[illegible]

俳句

梅百句（其一）　古梅村

梅十日散らぬを惜しむ床の上
白梅の峯より明けて溪の春
宣戰の紀念に植し梅咲きぬ
梅床の床屋の主人梅を愛す
梅園の下女を雇へば名はお梅
別莊や梅ある谷を撰びつゝ
切り捨し枝を活ろ梅植へて
齋肝や梅に雜炊に乳母の家
梅の句を作る初心の運座哉
村長の寄附せし梅や札立てゝ

和歌

部の舍歌集　赤澤譽三

早春霞
遠山はまた雪ふき年のまゝなれど霞はたちて春は來にけり

寄玉祝
千歳の玉はあれども言玉の光にまさる玉あらめやも

日出山
大みのや鏡の山を出つる日の塵もくもらぬ君が御代哉

鐵道
虎の伏す山の奧にもくろがねの道開けゆく君か御代哉

船
潮沫のとゞまる極みゆき通ふ船ぞ御國の寶ならまし

覊不逢戀
斯く計り馴にしものをいかなれば逢ふ事難き此世なるらん

富士山
雲ひちのなれるものとも見へぬかな雲井に高き富士の芝山

小說

佛蘭西騎兵の花（十一）

英國　コーナン、ドイル作
日本　梅村蝶士譯

捕虜の賭博

頃は一千八百十年の七月の初である、世良田大佐（此話をする時は世良田は最早大佐に昇進してゐるのであつた）は西班牙のアセラモと云ふ村落の旅宿に滯在してゐた。世良田大佐は足に受けた槍の突き傷を養生する為に一ヶ月計り此處に來つてゐたので最早癒つたけれどもまだ足を地に着ける事が出來ない、此時一處に居たのは木村大尉と進堂と云ふ軍曹であつて孰れも輕傷であつたから間も無く戰線に走り加つて了つたので獨り後に殘つた世良田は指を噛み頭髮を掻き抓つて殘念がつたのである、其部下のコプランの輕騎兵が其指揮官を失つておる事を思ひ出す度毎にいつも斯う語るのであつた。

世良田は此時最早騎隊を率いてゐるのであつたが全軍隊の内で尤も年少の大佐であつた、それが彼が部下に對するの情は恰も我家族の如き感がするのだ。

世良田が始めて寢臺を離れて旅宿の表口に鈴を引きされ出て見た時は西班牙の夏の日光が彼を心地よく感せしめた、英葡聯軍の戰略を[illegible]

世良田は我聯隊からの最近の消息を得た、それは此處から四十哩の距離に在るパストルスと云ふ處で英國の軍隊と對陣してゐる、から何時衝突が起るかも知れないと云ふのであつた、而し世良田はせめても其足を受けた傷の隻脚を吊して了つたから種々宿の主人と昨晩れ行く事が出來やう、其足に受けた傷の[illegible]泊り客であつた西班牙の一老僧とに相談をして見たが老僧によると此近傍の田舍には一頭も馬と云ふ者を探し出す事が出來ないと云ふのであつた。

宿の亭主は世良田の單身でパストルスに行かうと云ふのを止めた、それは其中程は山道を通らねばならぬ處があつて其峠には西班牙の山賊で若智路と云ふ恐ろしい猛惡な奴が籠つてゐる、若し其奴に捕まらうものなら非常に殘酷な目に會つてなぶり殺しに會ふのであるから到底護衛兵無しにて此を越ゆる事は六ケ敷いと云ふのであつた、而し此點に關しては老僧も反對の意見であつて佛國の輕騎兵に對しては山賊共が決して手を出さないから安全であるとの說明をして世良田を安心させるに足るものがあつた、而し馬だ、馬をどうして得やうかと云ふ事が世良田に採つては大問題である、世良田は今しも表口の杜に寄りかゝつて其事を考へながら街の通りを見て居ると俄に馬蹄の音が聞えて大きな醜男が逞しげの黒馬に打跨つて來るのが見える、其服裝は緑色に上衣で軍服仕立である。

世良田は其近づき來るを見て、
世良田「やあ今日は」
と呼んだから其男も之に挨拶をした、
世良田「私は輕騎隊の世良田大佐だが一ケ月計り此處に療養をしてゐたけれども、もうパストルスの自分の聯隊に歸らないければならない事になつてゐるんだ」
世良田「私は輸送部の馬場と云ふ者ですが、私も是からパストルスまでおくのです、若し貴下と御同行を願へれば大變好都合ですな、山道が隨分危險であるとの事ですからな」
世良田「處が僕は馬を失つたから困つてゐるんだ、若し君が乘馬を僕に賣つて呉れるなら僕は先方に行つて部下の者を迎へに出して君の護衛をさせるけれども」

馬場輸送官は此相談を聞かないのであつて、宿の亭主が若智路の恐ろしい遣方の話をして聞かせたのも世良田が佛國軍隊及其國家に對する義務を論じたのも一向耳に留めないで宿の亭主に向ひ聲高く一杯の酒を命じた、世良田は何氣なき樣子をしてまあ馬から下りて自分と一杯飮ふぢやないかと云ひかけたけれども、其眼中に何かの意味があるのを見たらしいので馬場は頭を振り馬上で以て盃を傾けてゐるから世良田は最早堪へず其奴の足を取つて引き下さうと思つて一歩前に進んだとき馬場は拍車を當てゝ馬を躍らし早くも馬蹄の烟に其姿を隱して了つた。

朝鮮日報

韓國雜事

●韓帝御出遊の説　確かなる筋に就て聞く所に據れば大韓國皇帝陛下は來る三月末御發輦我が邦に御來遊暫く御駐蹕のよし確定相成たる由にて御行在所は日光に設らるゝ筈なりと、東京のやまと新聞は報ずるも其眞偽は知る可らざるも韓皇帝にして我國に御出遊相成るに於ては彼我兩國の親睦を增す上に於て蓋し裨益する所多かる可し

●義和宮殿下の歸鮮　米國留學中なりし義和宮殿下は五六日前桑港を發程したる筈なり

●地方顧問設置説　警視丸山重俊氏韓國警務顧問として韓國の警務を總攬すると共に各道觀察使所在地即ち各道の首府に一名宛の警務顧問を置き各部内の警察事務を監督し中央地方相呼應して警察事務の普及刷新を謀らしめん計畫あるあとは既報の如くなるが猶韓國の收税事務は弊害百出到底今日の儘にては財政の基礎を確立するあと能はざるのみならず人民の困苦亦甚だしきを以て各道觀察使所在地に税務顧問を置き管内の税務を監督せしめ以て暴斂誅求の弊を除き地方官吏私曲を營むの途を杜がんとするの議あり目下其筋に於て調査中なりといふ

●損害金下附の通牒　明治二十九年以來韓國各地方に於て暴徒の爲めに殘害を蒙りたる邦人の賠償金は韓國皇帝より下賜せらるべきあとは既記の如くなるが去一日韓國皇帝陛下より十八萬七千四百〇四圓を支拂ふべき旨我公使館へ通牒し來れりと云ふ

●仁川棧橋の延長工事　仁川港の海陸聯絡頗る不完全にて石造棧橋一ヶ所あるに過ぎずして干潮時は水道の狹隘なる爲め閘中小蒸汽等一時に込み合ひ種々衝突難破の危險あれば這回仁川海關に於て更らに右石造棧橋の右方にある木造棧橋の延長工事を行ひ潮の干滿に拘はらず貨客の揚卸しを容易ならしめんとの計畫ありと

●京釜仁川事務所の廢止　京釜鐵道事務所は今回全會社の事務整理に伴ふて去月末限り廢止となり同所員の大部分は追ひ〳〵草梁なる本社に引き上げ更らに營業部派出所を設けて岸清松氏を其主任に宛て今後倉庫係會計係及工場を殘留するのみとなり且つ工場も來る五六月頃よりは廢止せん豫定なるが杉甲一郎氏は殘務整理として尚ほ當分は仁川に滯在せらるゝ由なり

●郵便局長會議　京釜鐵道開通の結果として韓國内に於ける郵便俄かに繁劇を加へたるより將來の郵便事務打合のため京城、仁川、釜山の三局長は京釜鐵線大田驛に會合し種々協議する所ありたり

●馬山鐵道の落成期　京釜鐵道の三浪津より分岐したる馬山線鐵道は(?)式を改めたる上鐵道開場の難工事あるを以て之が鐵道開通を觀るは早くも三月頃に至らんかと云ふ

●皇后の册立　嚴貴妃が事實に於て皇后の位地にあるは人の知る如くなれども名に於ては尚は貴妃の位地にありて名實兩立するに至らざる爲め機會あらば内家に接近せるものを使役し皇后運動を煽動したるとは從來屢々見る所なりしが昨今又々嚴妃の爲め内々宮中に皇后册立運動を試むるものあり或は意外に其運動運捗し居れりとの噂もあれば近々小安洞の別宮に於て皇后册立式を擧行するに至らんとの説あり

●官制改正の發表期　韓國政府にては本月四日（舊暦一月一日）までに官制改正を發表する意氣込にて昨日午前十一時より議政府會議を開き深夜まで官制改革に就き討議せし由其能議が聞く所によれば左の數項も事實となりて現はるべしと

一、議政を一人となすこと
一、學部及農商工部の廢止
一、法制局設置
一、文官高等試驗制定

●水道設計書成る　仁川居留地水道設計書調製に就ては居留地經理者より石橋工學博士に依囑中なるあとは逸早く本紙の報道せし所なるが右は既に調査濟となり昨日同博士より富田民長の手許に送附したるも未だ其詳細を紙上に發表するの時機に到達せざるを以て遺憾ながら暫らく之を見合せ唯該計畫の成りたるあとを報じ置く

●黄州の日語學校　昨年十二月一日開校したる黄州日語學校は開校後甚だ好成績を呈し生徒の數は五十餘名に達せり且つ同地在留邦人の熱情は勿論韓人側に於ての意氣込み甚だ盛なれば早晩必らず一大發達を遂ぐるに至るべし而して本校設立につき大に與つて力あるは校長森口筆吉、通譯志賀恒喜氏及三枝中尉の諸氏並に韓國參領金佑喜(?)長超庸三等なり

●公衆電報の開始　平壤、鎮南浦及元山の二地方は日露交戰以來軍用電線を架設されしも公衆電報の取扱ひを開始せられざりし爲めに該地方に在住せる一般邦人は尠からざる不便を感じ居れるが遠からず其筋に於て特に公衆電報の取扱を開始するあとゝなりたりと云ふ

●大韓運輸會社の創立　京城の河野久次郎氏其他有力ある諸氏は標の如き會社を創立し運輸事業を營む由にて資本金は二萬圓なるが既に株式の募集を終りたるにより不日創立總會を開くべしと云ふ

●馬山の土地競賣　韓國政府の傭技師カナリヤ氏は去る三十日馬山浦に赴き同地第三回の土地競賣測量に從事したる筈なるが多分三月上旬には競賣入を擧行するの

●在韓日語學校の聯合會　韓國に於ける我邦人經營の日語學校が何等の連絡統一なきは常に識者の遺憾とする所なりしが曾て岡部子爵の勸誘もあり傍々今回の聯盟上永く等閑に附すべからざるとの題目に依りて京城の榮原文學博士より各學校の主幹者に向つて右聯會に關する照會を發したる處何れも贊成の方なりし由にて愈々來る十一日より向ふ三日間京城に於て該韓國日語學校經營者の聯合會を開設し將來の發展及び統一上に對して熱議を遂げんとの都合なりと云ふ

●韓廷第二借款　過般第一銀行より借り入れたる三百萬圓にては白貨引換に於て猶は三百萬圓の不足を生ずる豫算にて右は韓廷より支出するあととなり居るも到底今日の場合其運びに至るべくとも思はれず結局更らに第二の借款を起すあとゝなるべしと云ふが右は第一銀行にて既に之を引受くるとに内定せりと

東京電報

●敵一部隊の前進〔五日午後四時四拾分發 同七時拾分着〕

公報に曰く沙河方面の敵は三日我陣地各處を砲擊し四日に至り其一部隊は七台子に來襲し我と交戰中なり

●北關に於ける露兵の退却準備〔二月六日午後〇時五分發 同三時五拾分着〕

五日附公報によれば北韓の敵は城津に蓄積しありし糧食を燒棄せり北方に引上る筈なりと

●各地の敵兵擊退（全上）

四日敵兵各所に來襲せしも擊退せり七臺子に襲來の敵兵は我守備の爲阻止せられ北方二里に退却せり

通信

●門司特報（二月三日發）　特派員 玄洋生

●豪州新音（去三十年以來約八ヶ年間眞珠採貝に從事し頃日歸來せし某氏の談）

●眞珠採貝業　從來日本人の濠州西部に散在せし出稼者は約二千八百四十餘人にして佛領ニユーカウスル、ユコカレド、ヱャ及び英領ボールダミン、ブローム、木曜嶋等なりしも佛領に於ける採貝事業は多量の收穫無き爲め近年著しく衰退せり三四年來殆んど英領に集中せるもの、如く目下木曜島に於ける日本人は千四百人ブロームに八百人ボールダミン百四十人にして就中ボールダミンにて捕獲せらるゝもの最上のもの多く昨年來三ヶ所に於ける收獲高はブロームにて三百六十噸、木曜島にて八百噸、ボールダミンにて百三十五噸なりしが右三ヶ所の收入を平均して尤も最高の金額を占むるものは蓋しボールダミンならんか昨年輸出せる濠州に於ける市場の價額を觀るに大なるものゝ八九斤小なるものゝ三四斤にしてブロームにて採獲せしものは一噸に付百八十磅木曜島のものは一噸三百五十磅を示しボールダミンの品は一噸實に九百磅の高價なるを觀ても他の二ヶ所のものに比較して如何に多大の懸隔あるかを知る可し而して採貝に從事せる日本人の賃金は潛水夫一噸に付二十五磅にして潛水機械を操縱する所謂水上勤務を爲すものは一噸に付四志六片綱持は四片にして船上に於ける貝殼と肉中に包藏せる眞珠を採索するものは一志八片を給せる

●戰局と日本人　日本人は前記三ヶ所の各團體にて一の日本人倶樂部を組織し利害得失の問題起る毎に互いに相聯繫して共同運動をなし且互に日本人の融和を圖る事に努め居れり又日露戰爭の未だ破裂せざる以前に在りては濠州各殖民に於ける日本人排斥の運動時々問題となりし毎にタウンスビール日本領事を煩す事多かりしも今は全く其跡を絶ちて近來各國人非途上相逢ふの人にして未だ一面識も無き者に至るまで握手を求むるなど實に我々日本人の肩身の廣きを覺ゆるに到れり

波羅的艦隊の事に關しては出發前未だ南洋方面に露はれたるの消息に接せざりしも最も露艦らしきもの、艦影を觀たるものあらば直ちに領事に通告すべきは一般の日本人に傳へられ居りしが如し

●メルバ島の食人種　同島はポールダミンより百二十哩の海上に在る一孤島にして同島の土人は南洋中にても其性質最も獰猛只僅かにシヤー其他諸外國人に時々接する事あるもの、外は人畜の差別を爲さず最も死者を埋葬する事あれば直ちに之を發掘して其肉を喰ふのみならず他人種にて内地深く探險等の爲めに入込む事あらうで防禦力の薄弱ならんには彼等は是を殺害して其肉を喰ふ事屢々なり然れども只感ずべきは同人種の肉を喰はざる一事なり彼等は同族の死者に向つては厚く之を埋葬し一尺角位の欑木を立て木を丸材にて欄を結び之を囲ひ居れり彼等の常食としては果實、木葉、昆虫、蒼蠅の類に過ぎざるも南洋には大なる蜥の如きトカゲあり彼等の祝日に珍味として喜ぶものにして最も飢餓に遭遇する時は平素より貯へ置ける土（一種の鹽分を含めるもの）を丸く干し堅めたるものを嚼みて是を醫すると云ふ

雜報

●砂金事業の昨今　砂金採掘の最も有望なるは韓國の大事業なるが何分其區域の廣大なるが爲め實地に就て非常に困難なるものあり星州より平壤間に到る地層は大概砂金を含むよし我て先年我國の澁澤、淺野の二氏盛んに韓人を使役して鍬を入れたれど我監督制裁の亂雜なるため終に之を中止するに至りて徒らに百五十八乃至三百餘の勞働者雇入又は解雇の手數を要するのみにて止みたる故事之をして稍々先きを得せしめんには採掘權を有する限り我日本人にて之を掘收するに如かず實驗者の説によれば一日一人能く一匁以上二匁位は容易く得らるべしと然れども大仕掛となすには餘程の研究を要し器械の準備を俟つにあらざれば妄に着手し難く現に我邦に於て北海道に手を出したるもの多くは失敗し亦台灣に於ても殆んど成功したるは尠し依て昨今此業を營まんには自身勞働するの覺悟なかるべからずといふ

●在韓外國人　三十六年の統計に據れば在韓本邦人は三萬九千四百二十九人にして清國人に至りては五千六百四十九人、米人二百二十七人、英人百五十八人、佛人百三十九人、其他の外國人は孰れも極めて少數にして韓國に於ける外人總數の八割二分は實に本邦人の占むる處なり而して此は前記の如く三十六年の調査なれば開戰以後陸續渡韓せる渡韓者を合すれば其數實に驚くべきものあらん

●記憶すべき貳月六日　聯合艦隊司令長官東鄕大將は參内拜謁仰付られ六日午後四時半三須司令官、鈴木軍令部總監以下幕僚を隨へ東京出發吳に赴き旗艦に坐乘するなるが同大將は曩に露國皇帝が極東征略の重鎭として派遣したる第一太平洋艦隊を消滅して我滿州軍を安全の地に置き偉大の功を奏して以て海軍第一期の任務を全うし一たび凱旋したるが今回露國は更に第二太平洋艦隊を出動せしめ第一太平洋艦隊の失敗を回復し我滿州軍を孤立の域に陷らしめんと企て同艦隊は現下印度洋に游弋し戰機を窺ひつゝあるを以て大將は再び大命を奉じ出征することゝなりたれば昨年二月六日は我國民の記憶すべき吉日なるに二月六日は聯合艦隊始艦相率ゐて旅順に向て佐世保を出發したる日なるが今又本年二月六日を以て聯合艦隊司令長官たる東鄕大將がその旗艦三笠へ坐乘のため東京を出發せしは偶然にあらずといふべし

●海軍大演習　我聯合艦隊は東鄕大將以下各司令官等座乘の上某地點において一大演習を施行すべしと

●會戰命名　一月二十五日より同二十九日に亘る戰闘を黑溝台附近の會戰と命名す

釜山雜事

●棧橋會社の總會　來る十日全社に於て總會を開き下半期に於る決算を報告其他の件に就て種々協議すべしといふ

●農具製造と需要　滿韓經營の聲は農事改良となり農民改良の聲は農具製造の需要を生むあとゝなるを以て昨年頃より該器具製造を目的として渡韓するもの頗る多き由なるが同業者に就て聞く處に依れば韓民一般未だ該器具に注意を拂ふが如き想潮なく實行渺々しからざる等より何れも失敗に歸したるの風あれど農事改良を目的として入韓する人が今に至り頗る增加したれば韓人の販賣を目的とせざるも其の需要增加するに至るべしといへり

●補習科廢止の風説に就て　近來釜山小學校補習科は廢止せらるべしと風説する者あり父兄間に於て恐惶する向もある由なるが右は全然無根風説にして或は目下當事者間に於て商業學校設定の内議中なれば總て實行の曉に補習科の廢止せらるべきと臆測せしに過ぎざるべき乎兎も角世の進運に伴ふて教育の擴張を促しつゝあるの時斯る風説の全然虛言なるは言ふ迄もなしと石原民長の談也

●釜山小學校長　後任者として前の兵庫市小學校長某氏來任せらるべき事も略は内定したるやに聞く而して來任期は今後一週間以内なるべしといふ

●草梁分校々長　同分校々長は熊本縣人某と内定し兩三日中來釜の筈なりといふ

●目賀田顧問の通過　韓國財政顧問目賀田種太郎氏は歸省の途次六日午前十二時草梁着の直行にて來釜領事館を訪問有吉領事と晝食を共にし後四時群山丸にて出發せられたり

●足立太郎氏（京釜鐵道營業部長）　同氏は本日安東丸にて歸釜の筈なり

●和田雄治氏　韓國駐在（仁川）中央氣象臺技師和田雄治氏は昨日群山丸にて歸省

●下啓助氏　農商務省水產課長技師下啓助氏は昨日群山丸にて歸省せり

●林歌子來る　大坂博愛社主林歌子は孤兒院義損金募集の爲め一昨四日來釜辛町二丁目林方に宿泊中なるが當地婦人會と交渉の上幻燈音樂會を催すべしと時日場所等は未定なりといふ

●鎭南浦の近情

▲降雪と結氷の增　改曆以來連日の晴天に逐日寒暖を加へて二十日頃よりは室内に於て五十度以上の暖氣に昇り領事館構内の溜池に薄氷を張まんと思はれたる天候は一變し二十六日の晩より飛雪紛々として積むこと既に八寸、寒暑に舞るべき模樣なし、されど降雪の割合には餘程暖き氣候なるもずり〳〵と大寒に縮り來る寒さに當港以北に於ては或は近々再び結氷を見るべきか然らざるも多少の流氷は免かれざるべしとの噂なり

▲兼二浦航海船の擴張　當港と兼二浦間の航海船は過般當碇泊所司令部用の小蒸氣船を廢して當港回漕業堤組所有小蒸汽船共同丸を以て之に充て毎日午前十時出帆同日午後五時を以て歸港する定期航海なりしが當碇泊所司令部にては今回さらに二隻の滊船を某所より廻航せしめ都合三隻となし單に兼二浦のみならず當港以北の各航路及仁川間の航海を爲さしむべき目的の由

▲龍岩浦の結氷と梨花浦　去る二十五日龍岩浦碇泊所司令官の發電によれば龍岩浦に於て去る二十三日夜半より頓に寒冷を加へて再び結氷するに至りしが梨花浦に於ても亦同樣寒氣を增したれば或は結氷を見るならんとの事なり

▲一進會員の動靜　先日當領事館より三名の巡査を派して鎮南浦管轄内の視察を爲さしめたるが復命中、一進會員の動靜を聞くに黄海道方面の同會員は他地方に比して少數にして活氣なく隣村との聯絡すら通じ居らざる程なるか之れに反して平安道は流石に牛壤、安州、定州等に相應の勢力ある者等之れが牛耳を握れる事とて會員甚多數にして各所互に氣脈を通じ施政改善を標榜して頻に會員を募集するに努めつゝある模樣なるも之とて別に地方の治安を防害するが如き擧動はさらに見へずと云ふ

▲海岸工事　前通信に於て報じ置きたる通り當港各國居留地會議の決議せし海岸工事中阜頭にして税關倉庫も指定され居る分は既に其工事に着手せしが帑を隔て飛殺島に接する工事も亦近々着手さるべき筈なり

▲當港商人と安東縣　頃日來安東縣にては日用諸雜貨非常に欠乏し居り殊に清酒、味噌、醬油、煙草、下等防寒具等は凡て品切となり隨て其價格大に暴騰し澤庵一樽二十五圓、味噌、醬油共七八圓、チエリー五十二圓、朝日五十八圓、白菊(?)五十二圓、常盤七十圓の飛値と聞き當地商人は一種の組合を設けて是等の諸雜貨は或る回漕業者と結託し龍岩浦に積出す豫定なりしも前記の如く同港は再び結氷するに至りし事とて大に手違いて困り居るやに聞けり

●韓錢相場（二月三日）

(明治三十八年一月二十八日第三種郵便物認可)

朝鮮日報

天安　小井里　馬尾毛浦　新灘津　坪村　黃澗　大田　新灘　勿禁　龜浦

社告

本紙發刊日尚淺く配達方不慣なるが爲め往々不都合の廉も可有之候に付配達漏れの向も有之候ハヽ御面倒乍ら其節御一報被下度候右御願申上候 又た特に別紙配達を以て御送附可致候也

本紙定價の儀は 一ヶ月金參拾錢

但し遠隔の地へは別に郵稅金十三錢を頂戴可仕候

明治三十八年一月廿八日 朝鮮日報社

小說 露探狩り 黑潮

(十一)

お梅は衛生上と共に其夜一時過ぐる頃門司に着き、直ちに[illegible]行の夜行汽車に乗組み、繋て待受けゐたる杵島[illegible]の側に乗り[illegible]

「大層急にでしたがまだ東京にゐらつしやるの」

杵島は答へず、近傍の客を眺れば何れも眠を配れば何ふるうに烟草燻らし[illegible]を冠りて他愛なく[illegible]何となく後ろ見らるゝ心地して窓の外を眺めやれば、一人の支那人が荷物を肩に乗せて忙たいしく三等室に急ぐが見ゆ、お梅は[illegible]たど心に思へり、杵島は乗客を一度見渡して稍々安心したるらしく、

「少し急の必要があつて旅行をするんだが大坂まで行つて見なければ、まだ何處まで行くか分らない」

お梅「大坂ですか、東京へはゐらつしやらないの、妾大坂まで行つて東京まで行つて見たいんですね」

杵島「さう、東京へ行けるかしらんと」

汽車は[illegible]如き夜雲の下を走り、言葉少なき二人を眠らせざるまゝに乗せて佐賀神崎を經て鳥栖に着きぬ。

杵島は何思ひけんお梅を引立て、此處より下車せり。

お梅「でも妾は門司迄の切符を買つたんですもの、貴下大坂にゐらつしやるなら門司に直行した方が好いでせう」

杵島「いゝさ、お前の切符を見て見なさい、羽犬塚と書いてあるだらう」

お梅「へゑー、羽犬塚とは何處ですか、」

杵島「船小屋温泉のある處さ、好いから乗り替へなさい」

お梅「畜生さんから切符を買つて貰つて見なかつたものですから妾門司に行くのさ計り思つてゐましたよ」

お梅は乗り替へんとてプラツトホームを歩きながら斯く語れり、見れば三等室より最前の支那人は[illegible]上りう之を忙たしく船木行の列車に乗代ゆるなりき。

お梅はまたも此支那人を見たる事ある樣な顔だと思ひぬ、而しどうしても何處で何時見たのであるかは思ひ出し得ざりき。

汽車は羽犬塚驛に着きぬ、杵島はお梅の手を牽きて構内を出で車を飛して船小屋温泉なる樋口軒と云へるに急がせたり。

此處に不思議なるは杵島等の樋口軒に着ゐて一室に案内さるゝや、先にお梅の幾度も見たりし支那の行商人は何時の間にか此宿に着きたると覺しく廊下の處にて可笑しき日本語にて明日幾人かの同行者來る可きを説明しつゝあり、杵島は輕蔑せる横目を呉れたるのみ、杵島に差闘して隔の襖を閉めませつ。

「お前は温泉嫌好だから好いだらう此處の温泉は大概胃病に利くのだよ」

お梅「さう、そりや丁度好いんですね、妾まだ身體が好くないのに大阪まで直行なさると云ふんでせう、妾[illegible]宮島か[illegible]かで一日休ませて貰からかと思つてた位ですよ」

杵島「此處で一日休んで行くさ」

お梅「たつた一日だけですか此處にゐるのは」

杵島「明朝長崎から人が來るから其都合で直ぐに立つさ」

お梅「お朋友ですか、ゐらつしやるのは」

杵島「いやお醫者さんだ、而し内の屋ノ同樣さ」

雜報

●衛生組合組長副組長選擧會に就て 本月八日釜山第一區衛生組組合長及副組長選擧會左の定めらる

一選擧日時 明治三十八年二月八日午前九時より正午十二時迄

一選擧の場所 日本居留民役所樓上

一選擧區域 北濱町、本町、常盤町、琴平町、辨天町、坂の下

一選擧人の資格 選擧をなすものは前掲町内居留民にして宿主に限る

●選擧會通牒 本月八日の選擧會に付き各選擧人に左の通牒を發したり

本月八日釜山港第一區衛生組合組長及副組長選擧會を居留民役所樓上に於て相開き候條同日午前九時より正午拾二時迄當居留民役所へ出頭相成度候也

二月六日 居留民役所

●衛生組合組長選擧方法 昨年二拾六日第二號の規定に因り衛生組合各區組長副組長の選擧期日及其方法等は日左の通り發表せられたり

選擧期日 時間は何れも午前九時より正午迄

第一區 二月八日 第二區 二月拾日

第三區 二月拾三日 第四區 二月拾五日

選擧所及時間を周知せしむる方法

各區所に選擧當日の前日に通知書を配付し且つ新聞紙に廣告す

選擧方法

選擧場に於て投票用紙を交付す

開票時間

選擧當日午後一時より開票す

規約裁定の方法

選擧場に参會する人毎に草案を示し認諾の旨を表示せしむる事

組長副組長當選告知並に一般に公示の方法

當選者には夫々當選通知を發し公示は新聞紙上に公告す

●徴兵適齢者に就て 當港徴兵検査を受けんとするものは當民役所を經て京城駐在軍司令部に検査願を差出すと共に本邦郷里に於ける町村長の證明書を得同書を郡衙に差出すべしとなり

●目下の傳染病 去る二日に三名の天然痘發生し目下避病院に於て醫療中にて經過良好の方なる猶ほ腸窒扶斯患者二名ありて之れ又同院の醫療を受けつゝありて目下の傳染病患者は六名なりと

●本港の流行病 目下の小兒の傳染病としては氣管支加答兒も多く且つ五六歲の小兒が最も多し該病は時肺部に影響を來たし恐れあれば一般注意を要すと某醫は語る

船舶出入

●義州丸 は一昨日木浦仁川より客拾七名の乘客を搭載して入港全日本邦に回漕せり

●第五肱川丸 は九名乘客を搭載して元山より入港全日本邦に回漕せり

●群山丸 は昨日午後四時本邦に向て回漕

●手取川丸 は三十名の乘客を搭載して仁川より入港

小千代の氣焔（お鶴の博識）

『姉さん議論家で何のあと聞して頂戴な、これ樣は此處ろと言ぬ計り低くからぬ鼻を二三寸も高くして語る處が面白い

『それはネ千代ちやん斯うなのケンコ（漢語の事）の御解吾する人なんだワ『メーケンコて妙な名ネ—』『それや千代ちやん支那の言葉よもの可笑しいわ旦那の事をタウケ藝者の事をヒヤウチウて言ふの——夫れから外國語では旦那をマスター藝者の事をスツカーて言ふのよ』『姉さんは眞正に博識ね外國語つて何處の國『外國語で夫れや英語れ事サ『そーなの』小千代は暫し首を傾けた、併しまだ腑に落ちぬ處があるらしい『そんなら姉さん露西亞語は何て言ふ外國語おやなくて『夫れや千代ちやん違ふわ、露西亞語は矢張り露西亞語サ誰がアンナ露西亞語か外國語たなんて馬鹿〱しい『そーね外國語でなくて善かつたわ善い事ネ—』何か善いやら二人は露西亞の話しでや、柳眉をつり上げてあつたが、聽て小千代は再び語をつけて『アノ姉さん朝鮮語は何語たろふ、矢張り外國語ちやなくつて』お鶴も是には困つたらしい『そーネーあや何語かしらん夫れども日本語かしらん斯く暖てあつたが急に思ひ出した如く『アヽ解つた、千代ちやん夫れや乾度保護語だわ皆んなか朝鮮は保護するたつて言ふから』お鶴は自分ながら其解識を誇るか如くてあつた……か……小千代には其保護の解らなくなつてしまつた『妾い解らないわ眞正に面倒ョ姉さん妾い何でも善い事ョ(了り)

●飲酒、毆打、拘引 當港辛町二丁目十八番地賣薬半四郎方同居愛媛縣北宇和郡下灘村三百三拾一番地高橋長藏なるもの一昨夜同町拾五番地新谷寅吉の招待を受けて飲酒中寅吉方隣家大工職原籍山口縣豐浦郡河棚村五百拾二番地村市藏なるもの入り来り一言二言言交すや市藏は自宅より斧を携ひ来り此野呂と言樣長藏目掛けて斬り附くるにど長藏は驚きて疾走せんとするを背部より斬附けて負傷したる騒ぎに醫士警官出張して一方治療を施し一方は兩人を拘引して取調べたるが市藏の申立に依れば自分が上海地方に出張中妻のトミと姦通したると云ふことを他人より聞き知り憤怒し居る矢先自分も非常に泥醉し居り事とて斯くの次第に及びたるなりと猶目下取調中なり

●新妓現はる 奈良縣平民關根ひめ(二十)は金五郎と名乘りて金崇樓より、大坂府平民内西よね(二十)は金次と名乘りて同樓より、大坂府平民楢木キヌ(二十)は金之助と名乘り同樓より、大坂府平民加藤とみ(二十)は春助と名乘りて全樓より大坂府平民松原みね(二十)は春治と名乘りて全樓より大坂府平民上川ふく(十九)は國八と名乘りて電氣樓より何れも今晩は—

投書函

◎人身攻撃に渉たる勿れ ◎廣告欧羅的にする勿れ ◎百字以上を用ゆる勿れ

京城には非常に雪がふつた相だが釜山の山を見ると薄化粧である（好雪生）▲南濱の某煙草屋の前には韓人が毎日集まつて煙草器械を面白さふに眺めて居た（露の草）▲草梁の景氣は愈々熾んになる模樣である（虎の皮）▲朝鮮人の歌はまるで立板に水を流した樣である（神公）▲腹が減つた時は澤山美味を食つた時の事を考へると一時を間に合はすことが出來る（落葉山人）▲よく眠る人は一生を短くするの人だ（夢公）▲朝鮮人位い頭を大切にする國民はない髪を結び頭を冠ろそれは又熊の皮を冠る（花粉公）▲草梁で日本の小兒と支那のと朝鮮なのとが譯らぬ事を語つて遊んで居たのは一寸奇妙であつた（白堂生）▲釜山附近の瀧の名所邊ですか（栗の花）▲源氏の節の面白う、美哥の松原吹く風に、心も空に奴凧、ふわり〱と吾胸の、糸の白糸散亂と、狂ひ狂ひて柴垣に連れてあわれ此春を、雨に打たれて獨り泣く（粋多樓啄太）

株式會社第一銀行 第拾七期營業報告

負債ニ屬スル分

科目	金額
資本金	[illegible]
積立金	[illegible]
定期預金	[illegible]
當座預金	[illegible]
特別當座預金	[illegible]
諸預り金	[illegible]
仕拂送金爲替手形	[illegible]
他店ヨリ借	[illegible]
韓國支店銀行劵流通高	[illegible]
右ニ對スル保證準備（正貨準備）	[illegible]
借用金	[illegible]
前期繰越金	[illegible]
當期純益金	[illegible]
合計	[illegible]

資産ニ屬スル分

科目	金額
貸付及當座預金貸越	[illegible]
割引手形	[illegible]
荷爲替手形	[illegible]
國債及地方債證劵	[illegible]
株劵及社債劵	[illegible]
他店へ貸	[illegible]
地所建物及什器	[illegible]
新築費	[illegible]
地金銀	[illegible]
預ケ金	[illegible]
金銀有高	[illegible]
合計	[illegible]

利益金勘定

科目	金額
當期純益金	[illegible]
前期繰越金	[illegible]
合計	[illegible]
內 積立金	[illegible]
韓國支店積立金	[illegible]
役員賞與及行員恩給基金	[illegible]
所有土地家屋代價償却	[illegible]
配當金（年九分）	[illegible]
後期繰越金	[illegible]

明治三十八年一月
東京市日本橋區兜町壹番地 株式會社第一銀行
頭取 澁澤榮一
取締役 三井八郎次郎
全 佐々木勇之助
全 熊谷辰太郎
監査役 日下義雄
二 土岐債

前記ノ各項調査ヲ遂ゲ其正確ナルヲ保證候也

追テ取締役ノ補欠トシテ土岐債監査役ノ補欠トシテ尾崎次郎當選就任セリ

北又西ノ風晴

手形 十六割八分

廣告

●大阪の新聞取次
御好評の朝鮮日報を首め大阪の三大新聞並に京日日、報知、萬朝此七大新聞の一手取次を致します
中にも朝鮮日報は如何なる御商賣柄でも最も必要の新聞で紙面といひ記事と云ひ代價と云ひ他の朝鮮新聞に比し甚だ徳用だとの御評判を蒙て居ます
皆さん何なりとお好みの方をお召し下さい配達は若し如何なる雨天にても又た夜間にても精々迅速に致して御覧に供します
又た雜誌は目下の露朝鮮評論と日露合戰記などが發て居ります他にも追々と京阪地方の分を取り寄せますから澤山御注文下さい
韓語本・日語本色々と取り揃へてあります御用次第何時でも御届け致します
大邱府西門内
朝日商會新聞部

今般當地ニ支店ヲ設ケ鐵道貨物運送營業開始仕候
京城、仁川、永登浦ヲ始メ京釜鐵道主要各驛ニ本支店及出張所アリ御部合ニヨリ運賃發拂ニテ御取扱可致候京仁方面ニ於ル鮮魚雜穀物商業物其他一切委托販賣ノ御希望ニ應シ申候
京城南大門停車場前
運送業 京城 館田組 釜山支店

釜山幸町南濱通一丁目拾五番地
共生齒科醫院

磨擦 米廉價販賣
富平町
岡本商店
(電話三十一番)

西町三丁目
上西酒店

●乳牛健康無比
純良 牛乳
富平町廿四番地
稻尾牛乳店
●配達迅速便利

開店廣告
弊店今回左記各種雜貨卸小賣商開業特別廉價販賣仕候間多少ニ不係御注文之程奉願上候
黄燐マッチ寸 安全燐寸 洋釘各種 洋鐵各種
白赤さらしあん ショーヘル カスガイ 其他各種
硝子板各種
釜山辨天町三丁目十九番地
石川勝治

京釜 西行 [illegible]

呉服
太物
御春着用嶄新柄
各種品揃
原口釜山支店
電話十十二番

第壹回臨時販賣廣告
弊店は時局に鑑み左の方法を以て來る二十日より紀元節まで向十日間賣上金の内原價を控除し剩金の全部を恤兵部に献金の目的を以て花々敷販賣致候に付き右旨趣を以て陸續御買求被下度廣告候也
○式拾錢以上の賣品に對し景品を呈す
○金五圓以上御買求の方は特に新聞紙を以て御姓名を廣告す
○景品は御來店の上御一覽被下度候
明治三拾八年貳月一日
萬打及物類
諸大工道具
大阪 (光) 下村釜山支店
釜山北濱壹丁目四番地



大坂毎日新聞 一ヶ月代 四拾八錢
萬朝報 一ヶ月特別大割引 三拾錢
幸町一丁目長手通 山口新聞舖

歐米時計各種
附屬品各種色々
電氣鍍金
金、銀、赤銅、ニッケル、眼鏡付
幸町一丁目
園田時計店
(電話二一番)

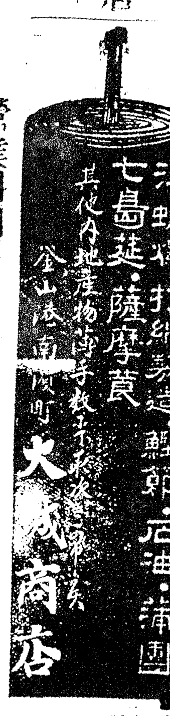


藤正宗
清酒特約販賣廣告
大日本 吉崎善三郎 釀造場
特約販賣店
寺町 吉崎善造
富平町 森與三郎

呉服太物類 特約販賣●告
右は今般下店義製產地と特約を結び何品に依らず特別大勉强を以て顧客諸氏の御注文に應し迅速御便宜を相計り可申候に付何卒多少に不拘御用仰付被下度偏に奉懇願候
呉服問屋
大日本 吉崎本店
福島合名會社 福嶋本店
一手販賣係
幸町長手通 吉崎支店
幸町南濱通 福嶋支店
富平町 森與三郎

營業科目
京釜鐵道各驛旅客需用品販賣部
京釜鐵道貨物運送部
釜山港内便利部
出入港滊船乘客手荷物運搬部
其他葬儀部等を設け凡て何用を問はず諸彦の需に應に
幸町三丁目九番地 電話は不日架設ノ筈
釜山赤組本部
草梁海岸通
赤組出張所

廣告
今般當所製出致候牛肉ソープル去廿六日ヨリ左ノ價格ヲ以テ發賣仕候ニ付テハ御試用ノ上陸續左記ノ處ヘ御申込被下度希上候
一合瓶一本金貳錢
ビール瓶一本金六錢
配達申込所 南濱町廿八番地 平田秀吉
製造所 釜山鑵詰製造所 (電話一四九番)



純良
牛乳
健康無比
迅速配達
富平町
磯村牧場
(電話五壹)

東京御料理
麥とろ
あそび
南濱海岸通り
(電話一四四)

勉強廣告
弊店開業以來日尚淺きにも不拘各位の御愛顧に依り日増繁榮に赴き候段奉感謝候尚乍此上一層の大勉强を以て販賣仕候間多少に不拘御買求の程偏に奉希上候
此外石灰竹瓦販賣仕候
南濱海岸通り
嶋木材木商店

寫眞撮影
釜山全景其他各地景色寫眞韓人風俗數十種
長手通辨天町
平井寫眞舘

●東京直輸入
嶄新にして大流行品
はきもの
たび類
特別廉價を以て販賣します
内山商店
電話二五六番

●(爲替取組先)
東京 大阪 京都 横濱
伏木 敦賀 富山 米子
兵庫 神戸 姫路 網干
柳井 岩見 庭瀬 萩
廣嶋 倉敷 門司 福岡
長崎 多度津 唐津 京城
防府 仁川 小郡
名古屋 尾道 宇和嶋 下ノ關 伊萬里 阿知須
一般の銀行業務は精々御便利に取扱可申候
株式會社 第五十八銀行 釜山支店
(電話五十八番)

丁寧親切
南濱町六番地
柳井旅舘

藥劑師
釜山本町
弓削靈藥舘
●風邪良藥
●妙振出し
●安質比林丸
●醫科器械類
●和漢洋藥類

大日本專賣局指定韓國官烟輸入元
釜山幸町一丁目
●文明
●朝日
●大和
●きりん印刻莨
韓國一手販賣店
齋藤支店

會席御料理
仕出し
西町三丁目(電話一二三)
春日

其他
●滋養スープ
●洋食
●會席
●御すし
●花むし
●茶碗むし
御好ミ應ず
幸町
養鷄舍

元祖鯛でんぶ、つる、がん
かも、鯛味付、鯛鹽から
鯛味噌、鮑、鰻蒲燒、鱧
蒲燒、牛肉、さざえ
弊店儀拾有余年間鑵詰業ニ從事シ實地ノ功驗ヲ積ミ今ヤ軍隊御用ノ榮命ヲ賜リ總テ器械ハ最新式ノ物ヲ使用シ確實勉强仕貴客ノ御便利ヲ計リ左ノ諸店ト特約販賣仕候間續々御購求ノ程願上候
製造御小賣販賣之外御好に應し製造仕候
鯛でんぶ元祖
入江町六番地 加納商店
仁川 春武商店
仁川 井上商店
京城 牧野商店
日本長崎築町
糧食問屋 隈田商店

屛風フスマ
表具類一切
調進所
西町三丁目三番地
岡田松月堂

血を增し肉を肥し胃を健にする
強壯的飲料は本品に如くものなし
蜂印葡萄酒
韓國一手輸入元
釜山幸町一丁目
(合) 齊藤商店
電話番號一四四

齒科診察治療時間
自午前八時至午後五時
但齒痛患者は此限リニ非ラズ
西町三丁目卅八番地
深江齒科醫院
(電話二百五十二番)

勉强廣告
通
國府洋服店
辨天町一丁目

唐津石炭
ガラ炭
國安商店
電話一七一